

二十歳の誓い

今自分のこれまでの人生を振り返ると、いろんなことからずっと逃げてきました。

足が遅いことが嫌で大文字駅伝の練習には一度も参加せず、学級委員は選ばれないことが怖くなかなか立候補できず、部活も真剣にやっても勝てないのが恥ずかしく、ずっと逃げてきました。

小学校当時の私は学校のことは後回しにして塾を中心にする生活でしたので、学校の先生には目を付けられていました。子どもながらに「何のための学校やねん、日本の教育変えてやる。」と粋がって「せや、政治家になれば教育を変えられる！」と思い、総理大臣を目指しました。しかし親が「無理無理無理、うちの家系では絶対に無理！」この一言で夢はすぐに散ってしまいました。次に国会議員を目指すことにしました。しかし、尊敬する優秀な友人も政治家志望だったのです。「彼には選挙で勝てない。無理だ。」私はここでも逃げる選択をしました。

そんな私でしたが、今は小学校の教員になって現場から教育を変えて行こうという夢を持っています。このきっかけも小学校の時で、ボランティア委員会に入ったことでした。高齢者施設を訪問するために、トーンチャイムという楽器を練習するのですが、ひとりが楽器を鳴らす回数はほんのわずかで、「何がおもしろいねん」「ほかのことした方がええやろ」と思っていました。しかし、いざ行ってみると考え方が変わりました。ちょっと鳴らただけなのに、高齢者の方は一緒に歌ってくれるしとても喜んでくれるのです。「人の役に立って超気持ちええっ！」この小学生の時の記憶が人生の方向を決めてくれました。

20年間、逃げながらここまで来た私が「決意を言葉にしたい！」と思い、自ら応募して今このステージに立っています。

私が目指している教員というのは、まっすぐな子どもを相手にする仕事です。私のように小学校時代の小さなきっかけで人生の方向が決まることもあります。一人一人の子どもを徹底的に大切にしない逃げない教員になれるよう励むことを誓います。

令和3年1月11日 新成人代表 西田 光